

# 6回生「学びのプロジェクト」

AKB Future Project 推進委員会

- 日程 2021年5月6日（木）、5月14日（金）、5月20日（木）
- 授業 総合的な探究の時間
- 対象 6回生 75名

4月より6回生たちは、過去2年間の課題探究の経験を通して得たプロジェクト運営や課題解決のスキルを進路活動に活用する方法について考え、手始めとして5月の連休を進路実現に向けて行うべきことを計画しました。5月の連休明けから3回にわたって実施した「学びのプロジェクト」では、中等教育学校卒業後に実現したい進路目標の具体化や深化、さらには、進路指導部の主導により5月中旬から2回にわたって行われる「進路全員面接練習」も視野に入れ、個々の生徒が自分のライフワークやその実現手段としての卒業後の学びについての考えをより深化させるために、様々な演習を行いました。

## 1回目（5月6日）

- ①4月末に策定した進路実現に向けてのGW中の計画を実践できたかを確認
- ②数十年かかる「大プロジェクト」のための「中プロジェクト」としての卒業後の学びを計画

第1回目は連休中の成果を確認した後、生徒は太田先生より進路活動における「キャリア形成」の概念について聞きました。受験のためにただ成績を伸ばすことや「何学部でもいいからとにかく〇〇大学に入る」というだけの進路活動とは対照的に、「人生をかけた大プロジェクト」実現の「中プロジェクト」としての卒業後の学びのあり方を理解しながら主体的に進路活動に向かう意義を考えました。



これまで同様、太田先生はリモートでA組とB組を同時に指導しています。

## 2回目（5月14日）

- ①「中プロジェクト」（卒業後の探究計画＝志望理由）の完成
- ②チェックリスト：自分事であり、かつ社会での貢献があること、計画に深みがあること

第2回目は、翌週に予定された「進路全員面接練習1」を視野に入れ、人生をかけた「大プロジェクト」とは自己満足ではなく、社会や世界にとっても意義あるものでなければならない、だからこそ、推薦か一般入試かを問わず、卒業後の学びで携わる「中プロジェクト」には、「この大学で、この先生のもとでこれを学びたい」という明確な理由があるべきであり、それを明確に言語化できることの重要性について学びました。その後、個人ワークに続き、全員面接を想定したペアワークにより、生徒たちは各自の進捗状況や課題を確認しました。



全員面接②に向けて知恵を絞り合っています。

## 3回目（5月20日）

- ①全員面接1の振り返りと共有
- ②次回までに改善したいことについて互いにアドバイス

進路全員面接1の翌週に行われた第3回目では、各生徒の手応えを確認した後、総合型・学校推薦型面接にも通じる「伝わる志望理由」に必要な要素について確認しました。さらには、これから各自の志望理由をより深め、磨いていくために、先生から学ぶだけでなく生徒同士で協働し学び合う方法につ

いて事例が紹介されました。最後には、75名の生徒全員が学校所有のクロームブックで共有されたスプレッドシートにアクセスし、第2回目の全員面接に向けての悩みや課題をリアルタイムで共有し、お互いにアドバイスを送る時間をもちました。社会の課題を自分事ととらえ、卒業後の学びを通して「明日を創る」存在となるべく、生徒たちの努力は続きます。